



NPO法人 府中かんきょう市民の会会報  
 2024年 秋号 10月9日(水)発行 通巻95号  
 発行人 浅田多津子(府中市美好町)  
 TEL 090-8806-8165  
 編集人 葛西 利武  
 (府中市市民活動センタープラッツ登録団体)

—夏休み特別企画—

西府崖線「水と緑の回廊」で、大自然の悠久な営みを学ぼう！

夏の「魚・昆虫いきものたんけん隊」に参加して

東京農工大学農学部 地域生態システム学科／福田信二教授

1. 「自然観察たんけん隊(魚の部)」に参加して

7月27日(土)9:00～11:45に開催された観察会に参加し、とても楽しい時間を過ごすことができました。猛暑にもかかわらず、参加して下さった市民の皆様、そして安全に配慮して実施して下さったスタッフの皆様にご心から感謝申し上げます。

今回の観察会では、一見、住宅地を流れる単調な水路で魚を観察しましたが、水田に接続する水路の流入地点や環境配慮施設の効果も相まって、多くの魚が泳いでいる様子が見られました。実際に水路に入ってみると、大きな礫や堆積物があり、これらが魚類にとって良好な生息場となっていることを実感できました(㊦写真)。

猛暑の影響で観察時間は短くなりましたが、振り返りの時間もあり、水生生物や昆虫と触れ合う貴重な機会となりました。炎天下での活動を終えると、今度は冷房がきいた西府文化センター3階講堂での観察会です。魚と昆虫についての講話が始まると、皆さん冷たいものを口にしてホッとしたような表情でした。

このような観察会を通じて、地域の自然や生態系、そしてそこで育まれる農業への理解がさらに深まることに期待しています。



㊦水路に入って魚をさがす参加者  
 福田先生は左側2人目の空色シャツ  
 ㊧定置網を仕掛けて水路の遊泳魚を採捕

も選定されています。周辺には水田や果樹園が点在し、住宅地を流れていることも特徴の一つです。道路と隣接していることもあり、ほとんどコンクリート護岸ですが、一部では土水路も残存しています。府中用水は、5月から9月にかけて通水されます。灌漑が終わると水がなくなりますが、矢川や崖線からの湧水によって、通年で水が流れる区間も存在します。

私たちの研究室が2015年から2020年に行った調査では、府中用水で26種の淡水魚が確認され、希少な水生植物の存在も報告されています。複雑な水路網に形成される多様な流れは、成魚だけでなく稚魚の生息にも適した環境を提供しています。また、水田との接続性が良好な区間では、魚類が水田に移入しやすく、産卵場や生育場としての機能も保持されています。



水田からの流出口と、礫や堆積物が見える箇所

2. 府中用水と魚類相

府中用水は江戸時代初期に開削され、多摩川から取水し、国立市から府中市まで流れる用水路で、疎水百選に